スペシャルインタビュー

目の前にいる人の笑顔のために踊る。チアスピリットの大切さを広めたい。

チアダンスインストラクター、キッズチアダンスカップ主催　松井　愛さん

幼少時からダンスに親しみ、本場アメリカでのチア経験も持つチアダンスインストラクター松井愛さん。
キッズチアダンスカップも主催し、日々チアダンスの普及に努める松井さんに、
ご自身のキャリアやチアの魅力について伺いました。

チアダンスに出会ったきっかけを教えて下さい。

松井　幼い時から体を動かしたり、踊ることが好きで、小学校1年生から新体操をしていました。中学校は新体操の名門・大阪樟蔭中学校に入学したのですが、オリンピックに出場するようなレベルの高い生徒が集まる環境で、挫折というか、練習について行けず退部し、ダンス部に入りました。ダンス部も全国大会常連校のレベルの高い部活動ではあったのですが、踊ることの楽しさや、審査結果だけでなく、プロセスを含めて楽しむことの素晴らしさに気付かせていただきました。高校卒業後に入学した関西学院大学でもダンス部に入部するつもりでしたが、サークルしかなく迷っていたのですが、大学のアメリカンフットボール部の試合を見に行った際に、満員の観客が見守る中で踊るチアリーダーの姿に心を奪われ、すぐにチアリーディング部に入部しました。

どのような点に魅力を感じたのですか？

松井　それまでに経験してきた新体操やダンスは、あくまで自分の得点や評価のための踊りだったのが、チアは他の人のために心を込めて踊ることに感動しました。直接勝敗に直結する訳ではありませんが、勝った時の喜びや、選手や観客に「ありがとう」と言って頂けたときに、フィールドと観客の橋渡しが出来ているのだと実感できます。

プロとしてのキャリアについて教えてください。

松井　就職も考えたのですが、チアリーディングへの思いが強く、アメリカンフットボールのXリーグの「アズワンブラックイーグルス」というチームのチアリーダーとして、プロとして活動することに決めました。プロと言っても、平日は別に仕事を持ちながら、週末にチアリーダーとして活動するのが一般的なのですが、私は他に仕事を持たず、チアダンスのインストラクターとして生計を立てることにしました。カルチャーセンターやスポーツジムなどに、チアダンス開催の提案をしていたのですが、当時はチアダンスの知名度も低い時代。収入も少なく、不安を感じることもありましたが、運良くあるTV番組でチアダンスが取り上げられて人気が一気に高まり、徐々に仕事も増え始め、なんとかインストラクターとして生計を立てられるようになりました。

人と人との距離が近い
関西ならではの
チア文化を作りたい。

海外にも挑戦されたのですね。

松井　はい。NFLのダラスカウボーイズというチームのオーディションの2014ファイナリストにも選出していただけました。プロとして活動することはできなかったのですが、近年ではSNS等を通して、オーディションに関する情報が身近になった事もあり、海外に挑戦する人が増えているようで、喜ばしいことだと思います。海外では日本のようにキュートで清廉な女性像ではなく、強い女性が喜ばれるので、日焼けをしたり、メイクの仕方も研究しました。また、外見だけでなく知性も問われるので、チームの歴史、アメリカの時事問題、栄養学なども勉強しました。

チアダンスの良いところは？

松井　ポンポンを操るアームモーションやラインダンス、ヒップホップダンスやジャズダンスも取り入れられたハードな動きを、2分30秒間絶え間なく続けることを求められるので、瞬発力やスタミナ、美しい姿勢も身に付く競技です。また、チアダンスは自分のためではなく誰かを応援することが原点なので、思いやりや礼儀、挨拶など、世の中を生きていくうえで大切な要素を自然に学べるのも特長です。

今後の目標を教えてください。

松井　チアダンスはまだ普及段階で、これから広まっていく競技ですが、人と人の距離が近い関西は、チアスピリットも根付きやすい土地柄だと思います。指導者や競技人口も増え始め、徐々に関西らしいチア文化が出来つつあるので、私もキッズチアダンスカップやスクール等を通して、少しでもそのお手伝いがしたいと思います。

TODAY'S SPECIAL

チアダンスインストラクター / 松井　愛さん

幼少期より新体操を始め、大阪樟蔭中学校高等学校ダンスクラブで活躍。関西学院大学入学後、チアの魅力に目覚め、チアリーダー部に入部。卒業後はアメリカンフットボールXリーグ「アズワンブラックイーグルス」のチアリーダーとして活躍。NFLダラスカウボーイズチアリーダーオーディションの2014ファイナリストにも選出。キッズチアダンスカップを主催し、チアダンスの魅力を広めるべく精力的に活動中。